

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年12月3日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0871900296		
法人名	社会福祉法人 博慈会		
事業所名	指定認知症対応型共同生活介護事業所 虹の家	ユニット名	1号館
所在地	〒300-1214 茨城県牛久市女化町253-2		
自己評価作成日	平成22年5月30日	評価結果 市町村受理日	平成22年11月26日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成22年7月16日	評価確定日	平成22年11月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>職員はとにかくご利用者が1日1日を明るく、楽しく過ごせるよう、家事や余暇活動、会話などを通して、ご利用者とふれあいを持っています。</p> <p>自宅でご家族と過ごせない寂しさや老いの辛さなどを分かちあいながら、そのような中でも喜びや新しい発見を感じられるように取り組んでいます。</p> <p>行事や外出会を通して季節の移り変わりを感じていただいたり、社会との交流を図っています。</p> <p>全体的に重度化が進む中で、地区老人会の方々のご協力やボランティアを活用し、施設内での芸能観賞などにも力を入れてきています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>職員は利用者が自発的にできること、やりたいことを判断し、できる力とやる気を尊重し、敢えて手出しをせず声かけと見守りの支援をしている。</p> <p>利用者が地域の中で安心して暮らし続けられるように、地域の人々とふれ合う機会を多く設けている。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	馴れ親しんだ環境でその人らしく暮らし、利用者の主体性を尊重する事をまとめた理念があり、玄関に掲示してある。職員は、朝礼や職員会議などで理念を確認し、共有して実践している。	事業所独自の理念を作成し玄関に掲示するとともに、職員は朝礼や職員会議などで理念を確認しているが、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念とはなっていない。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有し実践につなげることが望まれる。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者と一緒に近隣の店舗へ食材や日用品などの買物に出掛けている。自治会にも入会しており、地区の老人会の方とも交流があり、踊りや歌を披露して頂いている。又、毎月一度区長のところへ、区報を取りに行っている。	自治会に加入するとともに地区の老人会に参加するなど交流を図り、情報交換をしている。 利用者は職員と一緒に近隣の店舗へ食材や日用品などの買物に出かけ、地域の人々と交流している。 地域住民を対象とした認知症介護の研修を開催したり、県職員の実習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生やボランティア、見学などを積極的に受入れ、それらを通して認知症ケアの実際などを伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。運営推進会議でのつながりから、ホームにて、老人会の方々による歌や踊りの芸能の発表をして頂いた。地域の方との交流も広がっている。家族アンケートの作成や結果の検討などについても意見を伺い、サービスの向上につなげている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、市職員である介護相談員などが出席して、事業所の現況報告や意見交換をするなど、運営に活かした取り組みをしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の介護相談員の受け入れや運営推進会議へ参加を頂くなどをして、サービスの実情を伝え、相談・援助などの協力を頂いている。新規の受け入れや退所に際して、高齢福祉課、社会福祉課等と情報交換を行っている。	市高齢福祉課や社会福祉課の職員、介護相談員などと意見交換をし、情報交換や介護保険法改正などについて連絡を取っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット玄関には身体拘束廃止を宣言するポスターを提示しており、御家族や来訪者にもその重要性を理解し、職員はそれを実践している。	法人全体で高齢者虐待ゼロ宣言を表明している。 全職員が身体拘束の弊害を理解し、身体拘束は一切していない。 玄関は施錠せず職員が利用者の見守りができるよう、ミラーを設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どのような行為が虐待となるかを研修を通して学び、徹底して虐待防止に努めている。日中玄関とベランダは施錠せず、チャイムにて出入りの確認をし見守りを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援制度を利用している利用者もおり、その目的や大切さを研修を通して学んでいる。又、入居中に必要な入居者がいれば、関係機関への橋渡しを行い、活用する用意がある。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時や申し込み時に書面をもって重要事項などの説明を行い、また、いつでも閲覧できる場所に掲示していると共に、変更があった際にも同意書を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の時に、意見や要望を伺ったり、日常の面会時に会話の中から要望など引き出せるよう努めている。苦情ボックスの設置、又は運営推進会議により外部者の意見も聞いている。	利用者からは日常のふれあいの中から意見を聴くとともに、家族等からは面会時や家族会開催時に意見や苦情を聴いている。 家族等は無記名のアンケートを実施し、出た意見等は職員会議などで話し合い運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常から問題点などを話し合っており、ユニット会議や申し送り時でも検討を重ねている。起案書の制度もあり、職員の意見を反映出来る。	日頃から職員同士で意見等を言い合える関係を築くとともに、出た意見等はユニット会議や申し送り時にも検討し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度の見直し、サークル活動の援助などを通して職員のやる気や福利厚生などの充実を図っている。介護職処遇改善交付金の活用、資格手当などの見直しを行っている。突発的な休暇の希望にも可能な限り対応している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の情報を掲示し、職員の経験や知識・技術レベルに合わせた外部研修参加を積極的に行っている。又、月1回の施設内研修とその他に月1回の「虹の家」内部研修で技術や知識の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修や市内の事業所職員が集まる協議会などで情報交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時には利用者も緊張や不安が強い。職員は場面、場面において困っている事、不安に思っている事を見逃さないよう努力している。常に会話を第一に考え「その人らしさ」の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初めてお逢いする家族には、自己紹介をはっきりと行い、質問には正確に答えられるようにしている。又、家族からの要望等も積極的に取り入れ逸早く不安を解消し、安心を感じて頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のアセスメントから食事や排泄、入浴、健康管理など重要なケアについて体制を整えている。入所当初にセンター方式シートをご家族に記入していただき本人の状況の把握とケアについて検討を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「できる事」「出来ない事」を一人一人把握する事に努め、それに合わせ、共に食事を作ったり、掃除をしたり、一緒に食事を摂ったり、教えてもらったりしながら、共に生活をしている者同士の関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が受診への付き添いや、ヘアークットなど定期的に来ている。また、用事がなくても、家族を心配している利用者には、家族と電話などで話をして頂き、絆を深めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	兄弟、友人との交流が継続出来るよう、電話や年賀状による交流支援にも取り組んでいる。友人にも気軽に遊びに来てもらっている。又、宗教などの集会などにも継続して参加頂いている	利用者一人ひとりの希望にそって墓参りや帰宅の支援をしたり、きょうだいや友人との交流が継続できるように支援している。 知人などの来訪時には、利用者の居室や共用コーナーなど希望の場所に案内して、居心地よく過ごしてもらおうなど関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係に常に気を配り、こじれる事の無い様声かけしたり介入する事もある。一緒に料理を作ったり、習いごとを通じて仲間として関わり合える様支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でも相談や依頼があれば適切に対応する。他の施設に移り住む利用者の状況、習慣、好みやこれまでのケアの工夫等の情報を詳しく伝え、移り住んだ後も必要があれば相談や支援に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の生活暦を把握した上で、一人ひとりの思いを受け、歌、習字、散歩、縫い物など利用者の希望に添って行なっている。	職員は利用者の話や行動から意向の把握に努め、気持ちや思いを受け止めて支援している。 言葉の伝達が困難な利用者には、手を触れたり歌を口ずさむなど、利用者の気持ちを感じ取るようにして支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時などにご家族に情報シートを渡し記入していただいたり、普段から本人に子供の頃の話や、昔済んでいた場所の話、家族の話し、好きなことを尋ね、これらの情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活パターンを知り、顔色や表情、会話などからその日の心身状態をつかみ、無理のない一日を過ごして頂いている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は利用者や御家族の意向を尊重し作成している。作成に当たっては、定期的にケース検討を実施している。そして出来上がった介護計画の沿って、介護職員が共通意識を持ちケアしている。利用者の心身状態に変化があれば、その都度見直している。	介護計画は定期的にケース検討会議を開催するほか、随時話し合い作成している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、随時対応について話し合い介護計画を見直すとともに、全職員で共有している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日一枚の個別のケース記録を用い、一日の活動状況や課題、健康状態を職員全員が即座に理解できるような記入方法を心掛けている。気づいたことがあればケース検討会議で話し合いを行い、計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームでの生活が困難になった場合、特養への優先入居等、家族の要望や本人の希望には柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	桜の咲く頃には、近くの神社の境内をお借りしてお花見を行っている。又、区の会員になり、老人会の芸能の慰問を受けている。その他、ボランティアによるドッグセラピーも毎月第1月曜日行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診については利用者、御家族の意向を尊重した上で、かかりつけ医への受診を支援している。又、かかりつけ医と連携を図る事で緊急時でも適切な医療を受ける事が出来る。内科医、歯科医の訪問診療も受け入れている。	利用者や家族等の意向を尊重し、かかりつけ医への受診を支援しているが、家族等の都合が悪く職員が付き添う場合の負担が大きい。	かかりつけ医への付き添いは職員の負担が大きくなるよう検討することが望まれる。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一敷地内も特養の看護師と随時相談できる体制を持ち、毎週木曜日、訪問介護ステーションとの契約により医療体制を備えている		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはケース記録を持参し近況を詳細に報告している。また、退院時には医療機関からは施設で生活することにおける注意点を聞く等の情報収集を行っている。退院後も医療機関との連携を大切にし、必要であれば相談できる関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	『重度化した場合の対応に係る指針』を定め、契約時に利用者や家族等に説明している。主治医から終末期と宣告された場合は、関係者で協議した上で具体的な支援内容を記載した看取り看護に関する計画書を作成し、家族等の確認を得ている。	重度化した場合の対応指針を作成し契約時に利用者や家族等に説明している。 主治医から終末期と宣告された場合は、「看取り介護に関する同意書」を作成し、その同意書を基本に「介護計画書」を作成し関係者で協議したうえで具体的な支援を行うこととしているが、事業所で看取った事例はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを、見やすい場所に張っており、応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間や夜間を想定した避難訓練を毎年2回実施し、記録に残している。災害時必要な食料や備品を併設の特別養護老人ホームと共用の倉庫に備蓄してある。	昼間や夜間を想定した避難訓練を毎年2回実施している。 避難訓練に近隣住民の参加は無いが、同一敷地内に特別養護老人ホームや通所介護事業所などが隣接されており、災害時の協力体制を築いている。	夜間想定を含め、避難訓練を年2回実施しているが、次のステップに向け避難訓練で明らかになった課題を次回の訓練に活かせるよう取り組むことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失禁や食べこぼし等、他利用者に気付かれないよう対応している。名前はさんづけで呼び、日常生活動作が自立できていない利用者でも、誇りやプライバシーを損なわないように、お手伝いしている態度や、言葉掛けで接している。	職員は失禁や食べこぼしの時など利用者のプライドを傷つけない対応に努めている。 個人用ファイルは事務室のロッカーに保管し情報の漏洩に留意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今日一日の作業やレクリエーション、外出などの中から、何をしたいのか楽しく会話しながら選んでもらっている。献立作成において食べたい物を一人一人聞いたりして、利用者の希望には耳を傾けている。	/		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個人の生活スタイルに合わせており、入浴や外出に於いては時間を決めておらず、希望に添った日常生活が送れるよう支援している。また、利用者の趣味である茶道、習字等の希望が出た場合は利用者の意向を優先し実施している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者に会った髪型や身だしなみを支援しており、極力利用者の意向を尊重している。また、服装や髪が乱れていたりする時は、されげなく直している。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	すべての利用者が、食材の下ごしらえから、調理、盛り付け、片付けまで一連の作業を職員と一緒にしている。食事中も季節ごとの食材の事を話題にし、一人一人の子供の頃からの回想を聞いたりして食事を楽しんでいる。	利用者は職員と一緒に献立を作成したり、食材の買出しや調理、配膳、下膳などの役割を担っている。職員は食事の介助をしながら和やかに会話をし、利用者と同じテーブルで食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の既往歴や健康状態や摂取量を把握しバランスの良い食事になるよう心がけている。水分が足りないと思える利用者は、記録を取り水分量が確保できるようにしている。又、体重の増減など注意深く支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけしなくても良い人、声かけが必要な人、介助が必要な人を把握し、毎食後口腔ケアやイソジンによるうがいを実施している。また、月、水、金の週3回は入れ歯洗浄剤を使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人ひとりの生活のリズムやパターンに合わせたトイレ誘導を定期的に行っている。また、本人の動作を良く観察して、さりげなく誘導する事で、トイレでの排泄の支援をしている。夜間と日中ではおむつやパット等の使用量を減らすなどの調整もしている。	職員は排泄チェック表を活用し尿意や便意のない利用者にも時間を見計らってトイレ誘導し、おむつを使用せず排泄ができるよう支援している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩可能な日は散歩を、ラジオ体操もほぼ毎日実施している。食べ物もごぼう、寒天、芋類などの食物繊維を多く摂取できるよう工夫している。排便の状況に合わせて下剤の調整もしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	風呂は利用者の希望に沿って、毎日入浴できるよう支援している。柚子湯や菖蒲湯など季節に合わせて楽しんでいる。一人で入りたい人、何人かで入りたい人など、個々の希望に添って入浴できるよう支援している。	入浴は通常夕方の時間帯に実施しているが、利用者の希望にそっていつでも入浴できるよう支援している。 入浴を希望しない利用者には、無理強いをせず職員が声かけなどを行いさりげなく誘導をし、入浴ができるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後一眠りしたい方や、昼寝をしたい方、全く寝ない方等一人ひとり生活リズムが違うので、ホールに姿が見えない時等は、そと居室を覗き、寝ていたらゆっくり休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	糖尿病の薬や高血圧、その他、薬の目的や副作用など職員全員が理解しており、一人一人服薬確認を行っている。また、薬の処方が変わった時等、顔色や精神症状など変化がないか様子を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常、掃除、洗濯物畳み、食事作りなどすべてにおいて、楽しんでできる作業を分担し行う事で、利用者自身の役割が認識できている。また、歌、習字などなるべく多くの利用者に参加して楽しんでもらえるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候を見ながら、利用者の意向を尊重し外出支援を実施している。買い物、ドライブ、散歩等は利用者の気分転換が図れ、季節感を肌で感じることができるため積極的に支援している。	天気の良い日は事業所周辺を散歩したりドライブや花見に行くなど、利用者が季節を感じたり気分転換ができるよう支援している。 職員は利用者が希望する買い物や帰宅に同行し出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方には金銭の所持を認めているが、難しいと判断した場合については施設金庫にて保管している。買物等必要な時に職員と共に行き使っている。利用者によっては、直接レジで支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したいという訴えがある時は、家族の思いと本人の思いを尊重し、いつでもして頂いている。日常の手紙や年賀状などの支援も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに利用者の制作した壁画や習字、外出時や日常の写真が飾ってある。四季折々の花を生けて、自然で心とむ家庭的な雰囲気を作っている。また、快適に過ごせるよう音、光、温度、湿度にも十分配慮している。	リビングには利用者が書いた絵画や習字、外出時や日常を撮った写真を飾ったり、四季折々の花を生け心なごむ雰囲気づくりをしている。 快適に過ごせるよう音や光、温度などにも十分配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では利用者の安全や安心感を十分に確保するために、物の配置や利用者の席配置にも配慮している。ソファを3ヶ所に配置し他の方より少し離れた場所でくつろぐ事も出来るようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は好みの方向にベッドが配置され、テレビがあったり、家族等の写真、仏壇など馴染みの物品が持ち込まれ、利用者一人ひとりの使いやすい空間となっている。足元のふらつく利用者にはコールマットを敷き、職員が感知できるようにしている。	居室には家族等の協力を得ながら使い慣れた家具や手作りの作品、思い出の品を持ち込み、居心地良く暮らせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内において、利用者が安全に生活できるようバリアフリーとし、手すりなどを設置し、歩行する場所に物を置かないよう配慮する事で、利用者が自由に移動できるようにしている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 虹の家

作成日 平成22年11月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	施設の理念に、地域密着型サービスの意義を踏まえた文言が無い。	理念に地域密着型サービスの意義を踏まえた文言を加える。	今年度中に職員会議にて皆で話し合い決定する。	4ヶ月
2	13	避難訓練で得た成果を次の訓練に活かす。	職員が防災に対する意識を高く持ち、災害時にはスムーズに動けるようになる。	避難訓練実施時には各々の行動を振り返り、手順や次回に対する反省点を確認する。	次の避難訓練時より
3	33	重度化や看取りへ対応に不安がある。	ご利用者の状況に合わせ、自信を持ったケアを提供できるようにする。	・重度化に対応した体制の見直し ・ターミナルケアについてのマニュアル整備・勉強会	随時実施継続
4	14	他事業所との連携	気軽に相談できる同業者をつくる	・連絡協議会への参加 ・他施設見学	1年間継続
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。